

学会便り

第98回シンポジウム

「マグネシウム材料の新展開」

～マグネシウム合金の研究開発の現状と将来展望 女性研究者・技術者の活躍～

“New development of magnesium alloy”

—Current state and Future prospect of R&D of magnesium alloy,

Activity of female researcher and engineer—

森 久史*

Hisashi MORI*

1. まえがき

2016年6月3日(金)10:00～17:00に軽金属学会第98回シンポジウム「マグネシウム材料の新展開」～マグネシウム合金の研究開発の現状と将来展望 女性研究者・技術者の活躍～が、早稲田大学 西早稲田キャンパスで開催され、27名が受講した。学生、技術者、研究者からの幅広い年齢層の方に受講いただいた。軽金属学会では、2003年に第72回シンポジウムにおいて「マグネシウム材料の新展開」が開催されているが、近年、マグネシウムでは、耐熱マグネシウム合金、難燃性マグネシウム合金が開発されるなど、合金開発が積極的に行われているだけでなく、1次強度部材への適用を目的とした生産技術や表面処理技術の開発や医療材への適用を目的とした基礎研究が行われるようになってきている。さらに、このマグネシウム合金の研究開発では、女性研究者および技術者の活躍が目覚ましい。そこで今回のシンポジウムでは、マグネシウム合金に関する最新の研究および技術動向について、この分野の第一線で活躍されている女性技術者および研究者の方よりご講演いただいた。

2. プログラム

本シンポジウムの講演プログラムを以下に示す。

1. マグネシウム合金展伸材作製のための casting および熱処理技術
権田金属工業株式会社 伊藤 友美 氏
2. ミクロ組織制御による耐熱マグネシウム合金の機械的性質の改善
富山県立大学 鈴木 真由美 氏
3. マグネシウム展伸材の製造技術および研究開発
不二ライトメタル株式会社 佐々木 美波 氏
4. 生体内分解性医療用デバイスの開発に向けたマグネシウム合金の機械的性質の改善
神戸大学 池尾 直子 氏
5. マグネシウム合金プレス成形加工製品の表面処理
株式会社カサタニ 小原 美良 氏
6. パネルディスカッション「マグネシウム合金の実用化への課題と展望」
司会 株式会社TYK 大島 智子 氏
講演前には小橋企画委員より、企画の趣旨の説明および開会の辞があった。



パネルディスカッションの様子

写真左から鈴木氏、伊藤氏、佐々木氏、池尾氏、小原氏、左端 大島氏(司会)

伊藤氏からは、汎用および難燃性マグネシウム合金の casting および熱処理について紹介があった。鈴木氏は、耐熱マグネシウム合金の耐熱性と金属組織との関係について整理され、特性改善に関するポイントについて述べられた。佐々木氏からは、耐熱マグネシウム合金の加工、接合、表面処理技術の動向と研究動向に関する紹介があった。池尾氏は、生体内分解医療用のマグネシウム合金に関する研究事例について示され、機械的性質の改善に関する方向性を述べられた。小原氏からは、マグネシウム合金の表面処理に関する基礎的検討および表面処理に関する技術事例についての紹介があった。

また、大島氏が司会を行った講師全員によるパネルディスカッションでは、マグネシウム合金に関する利点やコスト、リサイクル等の幅広い分野に関して討論された。最後に小橋企画委員から閉会の挨拶があり、本シンポジウムを終えた。

3. シンポジウムを振り返って

受講者からは、様々な面からの情報が得られた等の意見が寄せられた。本シンポジウムが、将来の研究開発の方向づけとなり、女性研究者・技術者のさらなる発展につながれば幸いである。最後に、本シンポジウムの開催に向けてご準備いただきました、早稲田大学 吉田 誠教授にお礼申し上げます。

世話人 名古屋大学 小橋 眞
株式会社TYK 大島 智子
株式会社総合車両製作所 石川 武
公益財団法人鉄道総合技術研究所 森 久史

*企画委員会委員、公益財団法人鉄道総合技術研究所(〒185-8540 東京都国分寺市光町2-8-38)
受付日:平成28年6月6日